

# 博物館向け

新刊・おすすめ  
書籍のご案内

2021

**勉誠出版**

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10-2  
TEL 03-5215-9021 FAX 03-5215-9025  
E-mail [info@bensei.jp](mailto:info@bensei.jp)  
URL <http://bensei.jp/>

日本古文書学会 〈編〉

# 古文書への招待

## 過去の人びとのいとなみを読み取る

長屋王家符、北条政子書状、足利義教自筆御内書、  
豊臣秀吉朱印状、薩長同盟覚書裏書……

過去の人びとが書き残した「古文書」にはいったい何が書かれているのか？

古代から近代にわたる全四十五点の古文書を丹念に読み解くことで、  
古文書のもつ意味、それを記述した人びとの個性、  
書かれた背景をなす歴史的事件を明らかにする。

また、文章の内容のみならず、文字の書かれ方、料紙、大きさなど、  
「モノ」としての古文書にも焦点を当て、その魅力に迫る。

カラー図版をふんだんに配し、

全点に翻刻・現代語訳・詳細な解説を付した

恰好の古文書入門！

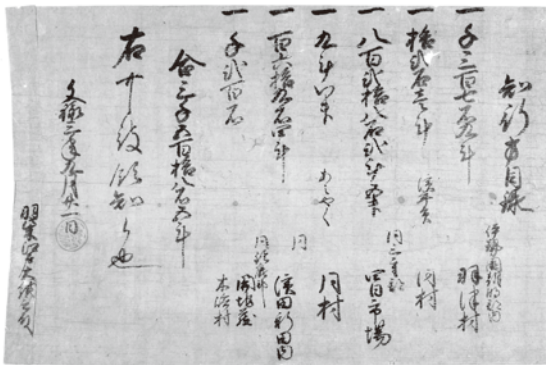
### 収録

#### ①かたち

長屋王家符  
他田日奉部直神護解  
太政官符  
源頼朝寄進状  
伊賀国黒田莊悪党人縁者交名  
武雄社大宮司都々丸代藤原進厚軍忠状  
足利義満書状案  
足利義教自筆御内書  
東寺款状  
羽柴秀吉制札  
徳川家康起請文  
豊臣秀吉朱印状  
開帳差免帳  
交代寄合山名義審書置

#### ②ひと

太政官符写  
源実朝袖判下文  
右馬允康経書状  
某書状案断簡  
護良親王令旨  
大蔵大輔某奉書  
足利尊氏御判御教書  
征西將軍宮令旨  
今川了俊書下  
栖雲斎威阿書状  
白川義親書状  
丹羽長秀書状  
毛利輝元起請文案  
黒田如水(孝高)書状  
五箇条の御誓文  
北条政子書状  
東大寺大勸進重源自筆書状  
高麗渤海關係某書状  
藤原為家讓状  
足利尊氏御判御教書  
沙弥惠尊(小田孝朝)書状  
足利義維御内書  
武田信玄自筆願文  
織田信長印判状  
豊臣秀吉知行方目録  
三井八郎右衛門宛寺井庄右衛門起請文  
薩長同盟覚書裏書(坂本龍馬筆)



豊臣秀吉知行方目録

開地蔵院所蔵

[画像提供・亀山市歴史博物館]

本体二、〇〇〇円(+税)

B5判並製カバー装・二七六頁(フルカラー)

二〇二一年一月刊行

ISBN978-4-585-22277-4 C1021

注文書	書名	部数
	古文書への招待	
	日本古文書学会 [編]	
通信欄	<p style="text-align: center;">本体3,000円(+税)</p> <p style="text-align: center;">B5判並製カバー装・176頁 2021年1月刊行 ISBN978-4-585-22277-4 C1021</p>	

書店印
ご担当者様

勉誠出版

千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX ● 03-5215-9025

増補改訂新版

# 日本中世史入門 論文を書こう

本体二、八〇〇円(+税)  
A5判並製カバー装  
六〇八頁・二〇二一年二月刊行  
ISBN978-4-585-22280-4 C0021

国士館大学文学部准教授

秋山哲雄

国立歴史民俗博物館准教授

田中大喜

共愛学園前橋国際大学専任講師

野口華世

編

2014年刊行の  
日本中世史入門  
好評につき、  
大幅増補・改訂して  
近日刊行!  
240頁増!

## 歴史を学び、 考えるために

「歴史」はたんに過去の出来事をわれわれに伝えるのではなく、現代そして未来の人々の動向を規定する「力」を持っている。そこに学問として歴史を学ぶ意義が存在している。それでは、われわれはどのように歴史と対話すべきなのか——歴史学の基本である論文執筆のためのメソッドと観点を日本中世史研究の最新の知見とともにわかりやすく紹介、歴史を学び、考えることの醍醐味を伝授する。

卒論・修論の執筆、指導にも最適!

まえがき：秋山哲雄・田中大喜・野口華世

I 「歴史学」を学ぶということ

II 論文を書こう——歴史学研究の方法を学ぶ

III 日本中世史研究の現在

中世摂関家論●中世的権門としての摂関家：高松百香

院政論●政治史と家族史の融合：佐伯智広

平家政権論●平家政権論の軌跡とこれから：前田英之

中世前期国家財政論●税制・財政史から中世国家・社会の成立を考えるために：守田逸人

荘園史研究●中世天皇家の荘園の意味を考える：野口華世

中世武士論●中世武士のとりえ方はどう変わったか：伊藤瑠美

鎌倉幕府論●中世の特質を明らかにする：秋山哲雄

鎌倉幕府文士論●鎌倉幕府を支える様々な人々：赤澤春彦

鎌倉期守護論●幕府による全国統治の実態に迫る：西田友広

中世前期法制史研究●鎌倉幕府の法と裁判へのまなざし：木下竜馬

鎌倉幕府御家人制論●鎌倉幕府御家人制が中世後期に遺したもの：清水 亮

中世武士団論●中世の武士と社会の特質を考える：田中大喜

朝廷下級官人論●朝廷を支える官僚システム：遠藤珠紀

室町殿論●新たな権力者像の「発見」：大田壮一郎

室町期守護論●室町期守護論の「これまで」と「これから」：大藪 海

中世後期法制史研究●室町幕府法からみた中世後期の「法」の特質：松園潤朗

中世寺院史●中世寺院と顕密体制を考える：石田浩子

中世村落・環境史●生活の舞台としての村落をどうとらえるか：高木徳郎

中世交通・流通論●水陸のみちを考える：藤本頼人

中世経済史●中世人の生活を探る：川戸貴史

中世都市論●都市の輪郭について考える：三枝暎子

中世身分論●身分と集団から中世社会を考える：辻 浩和

中世東国史研究●地域史と国家史のあいだで：植田真平

中世日本・東アジア交流史●外国との関わりを考える：伊川健二

中世日本境界領域論●東アジア交流の玄関口としての境界領域：荒木和憲

古文書学を学ぶ人のために●史料論の時代における古文書学の可能性：佐藤雄基

中世絵画史料論●絵画にかくされたもうひとつの日本文化：黒田 智

中世考古資料論●中世考古学の方法：村木二郎

執筆者一覧／研究概念・用語索引

書店印  
ご担当者様

部 数  
部

本体3,800円(+税)  
A5判並製カバー装・608頁  
2021年2月刊行  
978-4-585-22280-4 C0021

書 名	増補改訂版 日本中世史入門——論文を書こう 秋山哲雄・田中大喜・野口華世(編)
通信欄	

注文書

「Ⅱ論文を書くこと」では、論文執筆から投稿までのプロセスをフローチャートでわかりやすく紹介。各段階で押さえておきたいポイントはQ&A方式で詳しく説明。

はじめに

論文を書くという作業は、これまで進めてきた研究を文章としてまとめて新見を学界に問い、学問の進展に寄与することである。それだけに論文は、すぐに書けるものではない。ねばりつ参考文獻や史料に向き合ってテーマを絞り、どうすれば自分の主張を説得力のあるものにできるかを熟考して構成を考え、史料を深く読み込んで我田引水とならないよう本論を慎重に書き進め、読者に自分の意図が伝わるよう丁寧な文章を推敲し、全体に矛盾がないかを広い視野で見直し、ようやく書き上がるものである。おまかなフローチャートを左に示したので、まずはこれを参照しながら、後につづく項を読み進めていってください。迷った場合、面倒でもそれぞれの項目を何度でも確認していただければ、必ずや納得できる論文書き上げることができるはずである。なお、論文を書く方法は幾通りもあるだろうし、人によっても異なる。ここで示すのは、その中の一般的な書き方のひとつであることを断っておく。

【論文の書き方フローチャート】

①おまかなテーマを考える(1参照)

②参考文献を探して読む・史料を探して読む(2・3参照)

③テーマを絞り込む(1参照)

④参考文献を探して読む・史料を探して読む(2・3参照)

⑤テーマを確定する(1・3参照)

⑥構成を考える

⑦「はじめに」を書く

⑧本論を書く

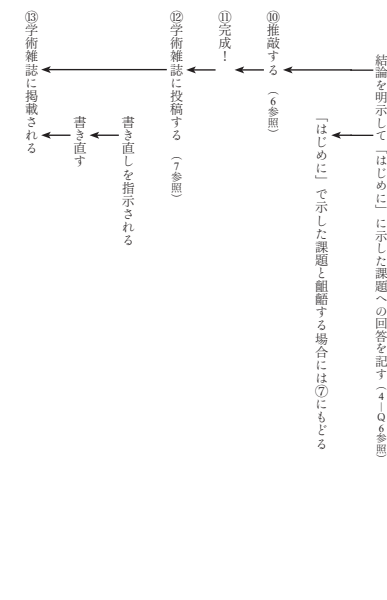
⑨「おわりに」を書く

⑩推敲する(6参照)

⑪完成!

⑫学術雑誌に掲載する(7参照)

⑬学術雑誌に掲載される



4 構成を考える

Q1 書く前にまずやることは?

1でテーマを決め、2・3でそのテーマに関する参考文献や史料を読んだら、ようやく論文を執筆できる段階となる。論文を書く前には、まず全体の目次を考えることをお勧めする。目次は、当然のことながら、書き進めていくうちに変わることもあるが、最初におおまかな目次(「流れ」)を考えておくと、論文の筋道が整理できて、わかりやすい論文を書くことができる。

目次は、「はじめに」本論「おわりに」という構成をとることが多い。本論は、3章から4章の構成にする双方と、書きやすいだろう。また、それぞれの章の中を、さらにいくつかの節にわけると、読者側・書く側の双方にとって、わかりやすい内容になる。たとえば、「例1」「例3」のような目次が考えられ、論文の形に近づいていくはずである。まずは目次をしっかりと考えよう。

【例1】武士団結合の複合的展開と公武権力

- はじめに
- 第一章 族縁的結合と地域的結合
- 第二章 鎌倉期武士団の一族結合
- 第三章 本領の形成と地域的結合
- 第四章 町場と地域的結合
- 第五章 小括
- 第六章 一族結合と惣領制
- 第七章 惣領制の形成と展開
- 第八章 家督と惣領
- 第九章 小括
- 第十章 南北朝・室町期の武士団と荘園制
- 第十一章 南北朝内乱と領地の所領の形成
- 第十二章 室町幕府の戦争Ⅱ荘園政策と武士団
- 第十三章 室町期の荘園制と惣領制
- 第十四章 小括
- おわりに

【例2】鎌倉と鎌倉幕府

- はじめに
- 第一章 鎌倉と鎌倉幕府の「独立」過程
- 第二章 鎌倉幕府の成立と鎌倉
- 第三章 鎌倉と鎌倉幕府の「独立」
- 第四章 小括
- 第五章 鎌倉の求心力
- 第六章 裁許の求心力
- 第七章 経済の求心力
- 第八章 宗教の求心力
- 第九章 小括
- 第十章 鎌倉の多核化
- 第十一章 將軍求心力の変化
- 第十二章 鎌倉の「地子」と「地主」
- 第十三章 鎌倉の「宿所」
- 第十四章 小括
- おわりに

【例3】中世前期公家社会の変容

- はじめに
- 第一章 女院領とその意義
- 第二章 女院領の成立
- 第三章 御願寺の継承とその意義
- 第四章 小括
- 第五章 鎌倉前期の知行者と後鳥羽院
- 第六章 鎌倉期の安楽門院による継承
- 第七章 後鳥羽院による知行者の改善
- 第八章 知行者改善の要因とその影響
- 第九章 承久の乱後の知行者の論理
- 第十章 小括
- 第十一章 安楽寿院の再編
- 第十二章 鎌倉後期の知行者の再配置
- 第十三章 知行者再配置の意味
- 第十四章 安楽寿院知行者のその後
- 第十五章 知行者の家領形成
- 第十六章 小括
- おわりに

Q2 「はじめに」で書くべきことは?

「はじめに」では、論文で扱うテーマに関する研究史の整理を行う。研究史整理を通して、現時点までに明らかにされてきたこと、そして現時点で課題として残されていることを、自分なりにまとめることになる。これによって、論文の課題を明示することができるのである。研究史整理は、論文を書くにあたってのもっとも重要な出発点であり、準備は入念に行わなければならない。準備の際に必要な参考文献・先行研究や史料の収集については、2・3を参照のこと。

「はじめに」で提示した課題が、結論と齟齬することがあれば、結論にあわせて「はじめに」を書き直す。ただし、最終的に書き直すことになっても、論文を書いている最中に方向性を見失わないように、まずは「はじめに」から書きはじめた方が無難だろう。なお、これまで研究がなされていないテーマで論文を書くこともあるだろう。その場合には、研究史がないことを指摘したうえで、なぜそのテーマを研究すべきなのか、その意義を記そう。

7つの段階に対応した43のQ&A

1 テーマを決める

- Q1 レポートと論文の違いは?
- Q2 テーマを決める要素は?
- Q3 論文にふさわしくないテーマは?
- Q4 興味を持つていくことが絞れないときは?
- Q5 主要な通史類、講座類は?
- Q6 最近の研究動向を知るには?
- Q7 テーマを決める方法は?

2 参考文献を読む

- Q1 参考文献とは?
- Q2 ふさわしい書籍とは?
- Q3 書籍を探すには?
- Q4 研究論文とは?
- Q5 学術雑誌とは?
- Q6 研究論文を探すには?
- Q7 研究論文を入手するには?
- Q8 参考文献の読み方は?
- Q9 参考文献を読むときに気をつけることは?
- Q10 参考文献を活用するには?

3 史料を読む

- Q1 史料とは?
- Q2 古文書を探すには?
- Q3 古記録や編纂物を探すには?
- Q4 地域の史料を集めるには?
- Q5 史料を読む前にすることは?
- Q6 史料を読むには?
- Q7 史料を読むときに気をつけることは?
- Q8 参考文献と史料を読んだ後は?

4 構成を考える

- Q1 書く前にまずやることは?
- Q2 「はじめに」で書くべきことは?
- Q3 本論で目指すことは?
- Q4 史料などを適切に引用するには?
- Q5 史料などを適切に引用すべきことは?
- Q6 「おわりに」で注意すべきことは?

5 注(註)をつける／史料を引用する

- Q1 なぜ注をつけるのか?
- Q2 どのようなときに注をつけるのか?
- Q3 先行研究を引用する場合の注のつけ方は?
- Q4 史料を引用する場合の注のつけ方は?
- Q5 史料を引用する際に注意すべきことは?
- Q6 一次史料と二次史料の違いは?

6 推敲する

- Q1 推敲するとは?
- Q2 文章を見直すときのポイントとは?
- Q3 文章を見直すときのポイントは?
- Q4 誤解されない文章を書くには?

7 投稿しよう

- Q1 どうやって投稿するのか?
- Q2 投稿すれば必ず掲載されるのか?

# 戦国合戦図屏風の歴史学

高橋 修 [著]

点数版図  
223点

豪華絢爛！細密の極致！  
「戦国合戦図屏風」はなぜ作られたのか？

「川中島合戦図屏風」  
「長篠・長久手合戦図屏風」  
「関ヶ原合戦図屏風」など、  
主要作品20数点を、  
歴史学の視点から丹念に読み解き、  
図像的特徴や成立背景、  
写本の普及と合戦像の定着、  
後世の評価について明らかにする。  
長年、合戦図屏風を追究してきた  
著者による研究成果の集大成。

【著者紹介】

高橋 修 (たかはし おさむ)

茨城大学人文社会科学部教授。専門は日本中世史。主要著書に『中世武士団と地域社会』(清文堂出版、二〇〇〇年)、『図説戦国合戦図屏風の世界』(監修、学研、二〇〇二年)、『異説』もうひとつの川中島合戦―川中島合戦図屏風の発見(洋泉社、二〇〇七年)、『熊谷直実 中世武士の生き方』(吉川弘文館、二〇一四年)、『信仰の中世武士団―湯浅一族と明恵』(清文堂出版、二〇一六年)などがある。

【目次】

カラー口絵  
序 論…「戦国合戦図屏風」の世界

第一部◎「川中島合戦図屏風」と甲越軍学

第一章…紀州本「川中島合戦図屏風」と紀州徳川家  
第二章…軍学者宇佐美定祐について  
—紀州本「川中島合戦図屏風」の周辺  
第三章…甲越軍学の軌跡  
—山本勘助と宇佐美駿河守を生み出したもの

〔補説一〕…享保二年(一七一七)四月十五日付  
栗林次郎左衛門(政盛)宛大河原重祐要門流印可状

第四章…山本勘助と『甲陽軍鑑』

〔補説二〕…狩野文庫の杉山家資料

第五章…米沢市上杉博物館蔵「川中島合戦図屏風」  
—画面構成と成立背景

第六章…ミュージアム中仙道蔵「川中島合戦図屏風」の  
図像的特徴と成立背景—公武協調の時代と「上杉謙信」

第二部◎「長篠・長久手合戦図屏風」

第七章…「長篠・長久手合戦図屏風」の概要と論点

第八章…「長久手合戦図屏風」の成立と展開

第九章…「長篠合戦図屏風」を読む

第十章…尾張・紀伊両徳川家における小牧・長久手合戦の研究と顕彰  
第十一章…豊田市郷土資料館蔵「長篠・長久手合戦図屏風」の  
図像的特徴と成立背景

第三部◎「合戦図屏風」の諸相

第十二章…「賤ヶ岳合戦図屏風」と「川角太閤記」

第十三章…「蔚山合戦図屏風」(朝鮮軍陣図屏風)の成立と展開

第十四章…和歌山県立博物館蔵「壬辰倭乱図屏風」について

第十五章…「関ヶ原合戦図屏風」の概要と研究の現状

第十六章…「長谷堂合戦図屏風」

第十七章…「湊川合戦図屏風」の世界

第十八章…「結城合戦絵詞」とは何か

補 論…その他の作品の手引き

総 論…総括と課題

戦国合戦図屏風所在一覧  
あとがき／初出一覧／索引

本体 9,000 円(+税)

A5判・上製カバー装  
カラー口絵32頁+本文496頁  
ISBN978-4-585-22301-6 C3021  
2021年2月発売

書 名	部 数
戦国合戦図屏風の歴史学 高橋 修 [著]	部
関ヶ原合戦を読む 慶長軍記 翻刻・解説 井上泰至・湯浅佳子 [編]	部

書店印
ご担当者様

勉誠出版

千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

## パブリック・ヒストリー入門【オンデマンド新版】

菅豊・北條勝貴[編]

好評につき重版!

歴史学や社会学、文化人類学のみならず、文化財レスキューや映画製作等、さまざまな歴史実践の現場より、歴史を考えた、歴史を生きる営みを紹介。人間と歴史との関わりを考え、日常に活かしていくための知識と方法を伝える日本初の概説書!

本体4,800円(+税)・A5判並製・カラー8頁+本文504頁・ISBN82254-7・2021年3月末刊行予定



## 中世の博多とアジア

伊藤幸司[著]

中世の博多をもっとも特徴付ける要素である「貿易」と「宗教」という視角から俯瞰的に考察し、中世日本最大の国際貿易港であり、東アジア海域有数の港湾都市であった博多の実像に迫る。国際交流史、都市史、流通史、宗教史を架橋する画期的な一書。

本体9,500円(+税)・A5判上製・564頁・ISBN22300-9・2021年2月刊行



## 鷹狩の日本史

福田千鶴・武井弘一[編]

権力と深く結びつきながら、日本の風土や社会のなかで地域・時代・階層、あるいは狩猟の目的等に合わせた独自に発展してきた鷹狩。日本史を貫く重要な要素でありながら、等閑視されてきた鷹狩の歴史を紐解き、新たな知の沃野を拓く刺激的な一冊。

本体3,800円(+税)・A5判並製・368頁・ISBN22297-2・2021年2月刊行



## 新彰義隊戦史 附・「彰義隊名鑑」「彰義隊文書」

大藏八郎[編]

彰義隊の歴史、隊士、縁者の人間像、そして映画・演劇・絵画への波及などを幅広く紹介。さらに生存隊士と子孫の証言や一次史料、関連資料を解析し事実と照合。その実態と全貌に迫る待望の書!写真、図版200点余を駆使して彰義隊を可視化した永久版!

本体7,000円(+税)・B5判上製・666頁・ISBN22285-9・2020年11月刊行



## 日本の表装と修理

岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人[編]

表装や修理は、どのような価値観や思想のもとに行われてきたものなのか。残し伝えられてきた「モノ」との真摯な対話の中から、表装と修理にまつわる文化史を描き出し、今日の我々にとっての文化財保護の意義と意味を照射する。

本体7,000円(+税)・A5判上製・432頁・ISBN20073-4・2020年3月刊行



## 日本の文化財 守り、伝えていくための理念と実践

池田寿[著]

文化財はいかなる理念と思いのなかで残されてきたのか、また、その実践はいかなるものであったのか。長年、文化財行政の最前線にあった著者の知見から、文化国家における文化財保護のあるべき姿を示す。

本体3,200円(+税)・四六判並製・352頁・ISBN20064-2・2019年3月刊行



## 近世・近現代 文書の保存・管理の歴史

佐藤孝之・三村昌司[編]

近世は幕府や藩、村方、商家等を対象に、明治以降の近現代は公文書、自治体史料などの歴史資料、そして、修復やデジタルアーカイブなどの現代的課題に焦点を当てて、文書の保存・管理システムの実態と特質を明らかにする。

本体4,500円(+税)・A5判並製・352頁・ISBN2253-8・2019年10月刊行



## 文化財と古文書学 筆跡論

湯山賢一[編]

書流・書法にとらわれた従来の一面的な視点を再考し、書誌学はもとより、伝来・様式・形態・機能・料紙など、古文書学の視座との連携のなかから、総合的な「筆跡」論への新たな道標を示す。

本体3,600円(+税)・四六判上製・320頁・ISBN03232-8・2009年4月刊行



## 古文書の様式と国際比較 東アジア古文書学構築のために

小島道裕・田中大喜・荒木和憲[編]／国立歴史民俗博物館[監修]

古代から近世にいたる日本の古文書の様式と機能の変遷を通史的・総合的に論じ、また、文書体系を共有するアジア諸国の古文書と比較。日本の古文書の特質を浮き彫りにし、東アジア古文書学の構築のための基盤を提供する画期的成果。図版120点超!

本体7,800円(+税)・A5判上製・432頁・ISBN22272-9・2020年2月刊行



## 文化財としてのガラス乾板 写真が紡ぎなおす歴史像

久留島典子・高橋則英・山家浩樹[編]

写真史および人文学研究のなかにガラス乾板を位置付ける総論、先駆的に調査・分析・保全を続けてきた東京大学史料編纂所ほか、同様の取り組みを進める諸機関の手法を提示する各論を通じて、総合的なガラス乾板の史料学を構築する。

本体3,800円(+税)・B5判並製・272頁・ISBN22173-9・2017年4月刊行



## 鳥獣戯画 修理から見えてきた世界

国宝 鳥獣人物戯画修理報告書

高山寺[監修]／京都国立博物館[編]

日本屈指の国宝『鳥獣人物戯画』。近時完了した足掛け四年にわたる大修理では、同絵巻に関する新発見がさまざまに見出されることとなった。『鳥獣人物戯画』の謎を修理の足跡をたどることで明らかにする画期的成果。

本体10,000円(+税)・B5判上製・256頁・ISBN27025-6・2016年9月刊行



## 地域と文化財 ボランティア活動と文化財保護

渡邊明義[編]

文化財の保存には地域と伝統文化の在り方が深く関わっている。文京区民による文化財への取り組み〈文の京地域文化インタープリター〉を学び、地域住民や行政による文化財保護・活用のこれからを考える。

本体3,400円(+税)・四六判上製・352頁・ISBN22503-4・2013年3月刊行



## 地域と人びとをささえる資料 古文書からプランクトンまで

神奈川地域資料保全ネットワーク[編]

地域社会を形成する紐帯としての資料のあり方に着目し、文献、写真、伝承、地名、自然史資料など多種多様な地域資料の保存・保全、活用の現場での経験から、地域と人びと、資料と社会との関係の未来像を探る。

本体3,500円(+税)・四六判上製・320頁・ISBN22150-0・2016年5月刊行



## 文化財／文化遺産としての民俗芸能

無形文化遺産時代の研究と保護

俵木悟[著]

有形のモノとは違い、形が無く、かつ人々の生活に埋め込まれ、いまなお変わり続けている祭りや民俗芸能などは、いかにして文化財／文化遺産となるのか。それらを保護する意義とその方法、そして研究のあり方について考察。

本体4,200円(+税)・A5判上製・320頁・ISBN20063-5・2018年3月刊行



# 古文書料紙論叢

湯山賢一〔編〕

歴史学・文化財学の最新の知見から、現存資料の歴史的・科学的分析や料紙に残された痕跡、諸史料にみえる表現との対話により、古代から近世における古文書料紙とその機能の変遷を明らかにし、日本史学・文化財学の基盤となる新たな史料学を提示する。

本体17,000円(+税)・B5判上製・896頁・ISBN222184-5・2017年6月刊行



# 紙の日本史 古典と絵巻物が伝える文化遺産

池田寿〔著〕

長年文化財を取り扱ってきた最先端の現場での知見を活かし、さまざまな古典作品や絵巻物をひもときながら、文化の源泉としての紙の実像、そして、それに向き合ってきた人びとの営みを探る。

本体2,400円(+税)・四六判並製・288頁・ISBN22176-0・2017年6月刊行



# 和紙のすばらしさ 日本・韓国・中国への製紙行脚

ダード・ハンター〔著〕／久米康生〔訳〕

「現代日本の手漉き紙は、全世界の紙工業を通じてまさに技術上の奇跡である」と絶賛。和紙こそ世界最高の紙である、という評価を世界に定着させた一冊。

本体2,800円(+税)・A5判上製・160頁・ISBN03247-2・2009年8月刊行



# 古代製紙の歴史と技術

ダード・ハンター〔著〕／久米康生〔訳〕

長年にわたる周到なフィールドワークをもとに、東洋・西洋の製紙事情を比較しながらその歴史と技術を豊富な図版をまじえて詳述。世界の製紙技術と歴史研究の基本文献として知られる名著。

本体5,000円(+税)・A5判上製・350頁・ISBN03246-5・2009年8月刊行



# 中世書写論 俊成・定家の書写と社会

家入博徳〔著〕

各種資料の筆跡や書写形式の綿密な検証により、俊成・定家の書写に見られる「独自性」を考察。その書風や書写に対する意識を明らかにする。また、以降、享受・継承され、カノン化されるまでにいたる「定家自筆」の問題を社会的背景から読み解く。

本体12,000円(+税)・A5判上製・384頁・ISBN03251-9・2010年2月刊行



# 医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界

陳捷〔編〕

医学・本草学・農学・科学に関する書物は、人びとの社会・生活に密着するものとして広く流通・展開し、大きな一群をなしている。東アジアにおける情報伝達と文化交流の世界を、地域・文理の枠を越えて考究する画期的論集。

本体12,000円(+税)・A5判上製・456頁・ISBN20072-7・2020年2月刊行

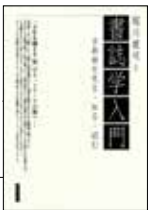


# 書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む

堀川貴司〔著〕

「モノ」としての書物に目を向けることで、人々の織り成してきた豊かな「知」のネットワークが浮かびあがってくる。「実践」・「知識」・「応用」の三編から、「書誌学」という学問をわかりやすく解説した画期的な入門書。

本体1,800円(+税)・A5判並製・272頁・ISBN20001-7・2010年4月刊行





# 文化情報学事典

村上征勝[監修]／金明哲・小木曾智信・中園聡・矢野桂司・赤間亮・阪田真己子・宝珍輝尚・芳沢光雄・渡辺美智子・足立浩平[編]

個々の領域で独立に行われてきた文化研究という縦の糸を、データ・サイエンスという理系の横の糸で編みあげる文理融合型のアプローチである文化情報学の集大成。文化と情報／データにかかわる人々の必携の一冊。図版点数 300 点超！

本体 18,000 円(+税)・A5 判上製・850 頁・ISBN20071-0・2019 年 12 月刊行



# 歴史知識学ことはじめ

横山伊徳・石川徹也[編著]

歴史学・史料学・情報学を融合し、歴史知識の共有と活用をはかる。科学的な方法と手段によるニューフロンティア研究！

本体 1,700 円(+税)・四六判並製・212 頁・ISBN00306-9・2009 年 3 月刊行



# 文化財アーカイブの現場 前夜と現在、そのゆくえ

福森大二郎[著]

日本の“こころ”と“かたち”をデジタルで記す。豊富な具体例を交えながら、文化財アーカイブのプロセスや現状、問題点をわかりやすくまとめた一冊。

本体 2,800 円(+税)・四六判上製・172 頁・ISBN20000-0・2010 年 4 月刊行



# デジタル文化資源の活用 地域の記憶とアーカイブ

NPO 知的資源イニシアティブ[編]

「文化遺産」や「文化財」にとどまらず、あらゆる人間活動＝「文化資源」を保存し活用していくには、もはやデジタル技術は欠かせない。その具体例を紹介するとともに、求められる人材養成・財源・知的財産のありかたに対する政策を緊急提言する。

本体 2,500 円(+税)・A5 判並製・224 頁・ISBN20007-9・2011 年 7 月刊行



# 入門 デジタルアーカイブ まなぶ・つくる・つかう

柳与志夫[責任編集]

デジタルアーカイブの設計から構築、公開・運用までの全工程・過程を網羅的に説明する、これまでにない実践的テキスト。これを読めば誰でもデジタルアーカイブを造れる！

本体 2,500 円(+税)・A5 判並製・200 頁・ISBN20060-4・2017 年 12 月刊行



# アーカイブズと文書管理 米国型記録管理システムの形成と日本

坂口貴弘[著]

世界最大級のアーカイブズ施設「米国国立公文書館」。その大規模システム開発の歴史を辿り、米国型の記録管理システムの形成過程を分析。日本が米国型を導入しつつ、どのように独自のシステムをつくりあげてきたのか、民・官・学の取り組みを追う。

本体 6,000 円(+税)・A5 判上製・400 頁・ISBN20047-5・2016 年 4 月刊行



# 博物館という装置 帝国・植民地・アイデンティティ

石井正己[編]

われわれは、いま博物館という装置を如何に考えていくべきか。時代ごとの思想と寄り添ってきたその歴史と、アイデンティティを創出する紐帯としてのあり方。双方向からのアプローチにより「博物館」という存在の意義と歴史的位置を捉えかえす。

本体 4,200 円(+税)・A5 判上製・416 頁・ISBN20038-3・2016 年 3 月刊行



## 権利処理と法の実務 (デジタルアーカイブ・ベーシックス1)

福井健策[監修]／数藤雅彦[責任編集]

実際の現場において著作権、肖像権・プライバシー権、所有権など、さまざまな課題に取り組んできた法の専門家、実務経験者による最新の知見から、アーカイブ活動を円滑に行うための俯瞰図とガイドラインを示すはじめての書。

本体2,500円(+税)・A5判並製・240頁・ISBN20281-3・2019年3月刊行



## 災害記録を未来に活かす (デジタルアーカイブ・ベーシックス2)

今村文彦[監修]／鈴木親彦[責任編集]

博物館、図書館のみならず、放送局や新聞社など、各種機関・企業が行なっているデジタルアーカイブの取り組みの実例を紹介。記録を残し、伝えていくこと、そして、デジタルアーカイブを防災に活用することの意義をまとめた一冊。

本体2,500円(+税)・A5判並製・208頁・ISBN20282-0・2019年8月刊行



## 自然史・理工系研究データの活用

(デジタルアーカイブ・ベーシックス3)

井上透[監修]／中村覚[責任編集]

オープンサイエンスや、研究データといったトピックスを交えながら、高等教育機関、自然史・理工系博物館、研究機関が開発・運用している各種データベースやWebサイトを紹介。天文学、生物学、地球惑星科学、環境学など、自然科学分野の事例を一望。

本体2,500円(+税)・A5判並製・240頁・ISBN20283-7・2020年4月刊行



## アートシーンを支える (デジタルアーカイブ・ベーシックス4)

高野明彦[監修]／嘉村哲郎[責任編集]

日本の芸術分野におけるデジタル対応の概要・現状から問題点まで、美術館、博物館などの事例をもとに、幅広く紹介。美術のみならず、音楽、舞踏、服飾のアーカイブの事例も掲載。日々進化するアートアーカイブの実状を知るための一冊。

本体2,500円(+税)・A5判並製・312頁・ISBN20284-4・2020年12月刊行



## 明治が歴史になったとき 史学史としての大久保利謙 (アジア遊学248)

佐藤雄基[編]

近代の政治家、官僚、軍人などの個人文書を収集・公開する国立国会図書館憲政資料室の創設に関わり、数々の史料編纂等、研究のための史料環境の整備に尽力した、大久保利謙。その足跡を史学史・史料論・蔵書論の観点から交え検証。

本体2,800円(+税)・A5判並製・240頁・ISBN22714-4・2020年6月刊行



## 木口木版のメディア史 近代日本のヴィジュアルコミュニケーション

国文学研究資料館[編]

木口木版の日本への導入と展開に大きな役割を果たした合田清、そして彼の興した生巧館の営みを伝える諸資料から、これまで詳らかに知られることのなかった近代日本の視覚文化の一画期を描き出す。新出の清刷をはじめ、400点以上の貴重図版を収載！

本体8,000円(+税)・B5判上製・328頁・ISBN27048-5・2018年3月刊行



## 書籍文化史料論

鈴木俊幸[著]

チラシやハガキ、書籍におかれたハンコ、著作権や価格、貸借に関する文書の断片など、真正面から取り扱われることのなかった人々の営みの痕跡から、日本の書籍文化の展開を鮮やかに浮かび上がらせる。書物文化史研究の第一人者による待望の史料論。

本体10,000円(+税)・A5判上製・480頁・ISBN22240-8・2019年5月刊行



# パリ・ノートル＝ダム大聖堂の伝統と再生

歴史・信仰・空間から考える

坂野正則 [編]

複数の年代にまたがる絵画作品、図面、大聖堂の写真といった豊富なビジュアル資料とともに、キリスト教神学・建築史学・西洋史学・文化財学による領域横断的なアプローチにより、「ノートル＝ダム大聖堂」の歴史、その復興・再生を考察する。

本体 8,000 円 (+ 税) ・ A5 判上製 ・ 288 頁 ・ ISBN31000-6 ・ 2021 年 3 月刊行



# 醍醐寺の歴史と文化財

永村真 [編]

平安時代の創建より、いまに至るまで仏法を伝え、その文化財の伝承・保存に力を注ぐ醍醐寺。その信仰と歴史に焦点をあて、これからの文化財との共存のあり方を再考する。

本体 3,600 円 (+ 税) ・ 四六判上製 ・ 344 頁 ・ ISBN22501-0 ・ 2011 年 6 月刊行



# 日本建築の歴史的評価とその保存

山岸常人 [著]

歴史的建造物をどのように調査し、その特質をどのように読み取るのか。またどう保存を行ってゆくべきなのか、その保存のための制度の課題は何か。歴史的建造物を保存し将来に伝えて行くための考え方や、その具体的な事例を提示する。

本体 17,000 円 (+ 税) ・ B5 判上製 ・ 672 頁 ・ ISBN22268-2 ・ 2020 年 2 月刊行



# 災害に学ぶ 文化資源の保全と再生

木部暢子 [編]

災害により失われた人と人のつながりをどう再構築するか。有形の文化遺産を災害からどう守るか。被災した紙資料をいかに復旧し保護するか。歴史学・民俗学・言語学・アーカイブズ学などの諸分野が結集し、文化資源保全と地域文化復興の方途を探る。

本体 3,200 円 (+ 税) ・ 四六判上製 ・ 256 頁 ・ ISBN22110-4 ・ 2015 年 3 月刊行



# G・E・モリソンと近代東アジア

東洋学の形成と東洋文庫の蔵書

公益財団法人 東洋文庫 [監修] / 岡本隆司 [編]

各地に残された資料、書籍を中心とした比類なきコレクション、そして近年研究の進展を見せる貴重なパンフレット (小冊子) 類を紐解くことにより、時代と共にあった彼の行動と思考を明らかにし、東洋文庫の基底に流れる思想を照射する。

本体 2800 円 (+ 税) ・ 四六判上製 ・ 312 頁 ・ ISBN22189-0 ・ 2017 年 9 月刊行



# アジア学の宝庫、東洋文庫 東洋学の史料と研究

東洋文庫 [編]

アジア地域の歴史文献 95 万冊を所蔵する、東洋学研究の一大拠点、東洋文庫。その多彩かつ貴重な史料群は、いかにして収集・保存され、活用されているのか。学匠たちが一堂に集い、文庫の歴史と魅力をひもとき、深淵な東洋学の世界へ誘う。

本体 2800 円 (+ 税) ・ 四六判上製 ・ 336 頁 ・ ISBN20030-7 ・ 2015 年 3 月刊行



# 書物学 第16巻 特殊文庫をひらく

古典籍がつなぐ過去と未来

編集部 [編]

国内外に蔵書を誇り、また古典籍の研究機関として名高い、大東急記念文庫、東洋文庫、斯道文庫、金沢文庫、静嘉堂文庫の 5 館をピックアップし、その魅力・来歴・蔵書を紹介。「特殊文庫」を知り、闊歩するための格好のガイドブック。

本体 1,500 円 (+ 税) ・ B5 判並製 ・ 96 頁 ・ ISBN20716-0 ・ 2019 年 7 月刊行



# アーネスト・サトウと蔵書の行方

『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって

小山騰[著]

サトウが収集したコレクションのひとつ『増補浮世絵類考』は、作者の斎藤月岑の死後、サトウの所蔵をへて、ケンブリッジ大学図書館にたどり着くまでの期間、この本はどのような変遷をたどったのか。その謎を追う。

本体4,200円(+税)・四六判上製・464頁・ISBN20078-9・2020年11月刊行



# 日本の図書館建築 建築からプロジェクトへ

五十嵐太郎・李明喜[編]

戦後間もない1950年代から、2020年代の現在まで、全国各地の特色ある公共図書館を紹介することで、図書館建築の歴史的流れを追った一冊。掲載写真は館外・館内含め、すべてカラーで掲載(一部モノクロあり)。掲載図版200点以上。

本体3,500円(+税)・A5判並製・336頁・ISBN20074-1・2021年3月刊行



# 図書館の日本史 (ライブラリーぶっくす)

新藤透[著]

図書館はどのように誕生したのか? 歴史上の人物たちはどのように本を楽しみ、収集し、利用したのか? 寄贈・貸出・閲覧はいつから行われていたのか? 古代から現代まで、日本の図書館の歴史をやさしく読み解く、はじめての概説書!

本体3,600円(+税)・四六判並製・400頁・ISBN20067-3・2019年1月刊行



# 世界の図書館から アジア研究のための図書館・公文書館ガイド

(ライブラリーぶっくす)

U-PARL(東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門)[編]

膨大な蔵書や、貴重なコレクションを有する代表的な45館を世界各地から精選・紹介。蔵書、閲覧手続き、アクセスや周辺の耳寄り情報なども収録!現地での利用体験に基づいた、待望の活用マニュアル!

本体2,400円(+税)・A5判並製・232頁・ISBN20069-7・2019年4月刊行



# 専門図書館探訪 あなたの「知りたい」に答えるガイドブック

(ライブラリーぶっくす)

青柳英治・長谷川昭子[共著] / 専門図書館協議会[監修]

全国の特徴ある図書館61館を文章とカラー写真で案内。アクセス方法や開館時間、地図など便利な情報付き。知的好奇心を満たす図書館がきっと見つかる一冊!

本体2,000円(+税)・A5判並製・152頁・ISBN20070-3・2019年10月刊行



# 図説 よりすぐり国立国会図書館

竹取物語から坂本龍馬直筆まで

国立国会図書館[編]

仏教典籍、古写本、絵巻・絵本、古活字版から、幕末維新期の写真、書簡、憲法草案まで115の名品を精選。名品の数々を味わい、日本文化の歴史を辿る。「大小暦」「江戸の博物誌」「ちりめん本」などコラムも充実。

本体2,800円(+税)・B5判並製・144頁・ISBN20029-1・2014年10月刊行



# 戦争と図書館 英国近代日本語コレクションの歴史

小山騰[著]

敵国語としての日本語教育や敵国財産として接収された日本語書籍などの遺産によって支えられたその発展を、戦争とのかかわりから読み解く。

本体3,800円(+税)・四六判上製・304頁・ISBN20066-6・2018年11月刊行

